

## 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 26 日

札幌市立 新琴似緑小学校

## 1 新琴似北中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	挨拶と言葉で未来を拓く新琴似の子	教職員の連携・協同 学びのつながり 指導の連続性 子ども理解の共有	B	挨拶と言葉による表現は、新琴似緑小学校においても、改善をするべき大切な重点項目であり、自校の挨拶運動や授業の工夫で改善を図った。しかし、西小や北中との連携という点では課題が残った。挨拶や言葉について、さっぼろっ子サミットに向けた取組との連携も強化したい。	B	B
今年度の重点	・研究会・授業参観での授業共有・児童の実態共有 ・身に付けておきたい知識や技能・生活習慣の共有		B	小中学校の職員で、授業づくりや振り返りを行い、互いの指導方法のよさや課題について共有できた。困り感をもつ児童については、これまで同様、小中間での引継ぎを丁寧に行っていく。身に付けておきたい知識や技能、生活習慣については、今後、テーマをしぼりながら、職員間、児童間で共有をはかる手立てを講じる。	B	B
学校関係者評価委員会による意見		目指す子ども像について、新琴似西小学校、新琴似北中学校との連携という点で、どのような課題があったのか具体的に明らかにした方がよい。課題を解決するための方策についても検討する必要がある。「お、あ、し、す」（おはようございます、ありがとう、しつれいします、すみません）をはっきり言える子を共に育てましょう。				

## 2 新琴似緑小学校における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	『みんなの「笑顔・夢・ありがとう」があふれる学校づくり』		B	学級活動部を中心に、三つのあ「あいさつ、安全、ありがとう」を振り返る場面を多く取り入れてきた。児童アンケートでは、自分の良い所、目標、人への感謝の気持ちをもつ子が8割を超えていたが、自己有用感、自分で計画を立てる力、思いを伝える力に課題があった。自己有用感、安心感や幸福感が十分に満たされて初めて得られる感覚と捉え、子ども同士や、教師がかかる言葉が大切と考える。今後は、授業等を通じ、言葉による表現力や自分で目標達成のための方策を選ぶ力を高めたい。	B	B
学校関係者評価委員会による意見		小学校は「挨拶」ができる子の育成が基本となる所である。地域、学校が一直線となり、進む方向を同じにして、指導していきたい。先生方にはがんばってほしい。				

人間尊重の教育	「自分が大切にされている」と実感できる「人間尊重」の教育	・「競争」から「共に創り出す「共創」へと教育意識を改革し、ともに創り上げる学校社会の創造を図る ・自立・平等・信頼	B	児童アンケートで、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。」と答えた子が82%、「自分の学びや成長に学校以外の様々な人が関わっていると感じている。」と答えた子が79%と自立、信頼の心が育てられていると考える。一方「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。」と答えた子が76%と、低めで、子ども同士の言葉による関わり合いを高め、お互いの信頼感を高めたい。	B	B
「学ぶ力」の育成	「課題探究的な学習」を取り入れた授業の充実～「AAR」を意識して	自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力	B	今年度は研究主題「進んで学びをつなげる子ども～自分で動き出す」を基に、職員全体で授業づくりを進めた。児童アンケートにおいて、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた子が82.3%と8割を超え、前年よりも割合が増えた。一方児童アンケートにおいて、「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている」と答えた子が77%と低めだった。来年度は、AARのRであるリフレクション（振り返り）に重きを置き、児童自らが学ぶ方法を考え、選び取る力を高めたい。	B	B
「豊かな心」の育成	自他の命を大切にする教育の充実	・自己肯定感・仲間意識 ・児童の「育ちたい」という意思と希望を育む	A	道徳、防災教育を中心に、自他の命を大切にすることを続けた。児童アンケートで「自分にはよいところがある。」と答えた子が9割を超えており、自己肯定感の高まりから、自分の命を守る意識が高いと考える。また「なかよし活動」などの活動を通して、仲間意識を育てたり、学校全体のつながりを深めたりすることができた。引き続き、自己肯定感や仲間意識を育てる取組を続けていきたい。	A	A
「健やかな体」の育成	自己目標をもって健康な体をつくっていく取組の推進	①体育・保健体育等の授業の充実 ②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組 ③子どもが自らの健康の保持増進を図る取組	B	児童アンケートで「健康診断の結果等から、自分の体の成長や健康状態を知っている。」と答えた子が79%だったのに対して「健康のために、自分には何か必要かを考えて生活しようとしている。」と答えた子が76%と低めだった。自分の体の状態はほぼ分かっているが、そのためにどのような方策が必要かを考える力が不足している。授業の中で、健康に関して目標を立て、そのために何ができるかを考え、実行する機会を増やしたい。	B	B
いじめ対策	いじめが起きない学校づくり	・早期発見 ・いじめに関するアンケート ・個人面談、保護者面談、 ・いじめ防止委員会	B	月1回のいじめ防止委員会を実施し、各学級でのいじめの実態把握に努め、職員全体で対策を考え、いじめの深刻化を防止した。来年度は、いじめに関するアンケートの回数を増やし、よりきめ細かな対策と早期発見に備えたい。スクールカウンセラーの戦略的運用について、具体的に実施していきたい。	B	B
学校関係者評価委員会による意見		それぞれの分野で自己評価が適切にされていると思う。今後も子どもたちの成長を支えるために力を注いでほしい。小学校1年生から6年生、そして中学生の朝の挨拶は素晴らしい。ほめてあげたい。				